

令和4年度 県立鉾田第一高等学校自己評価表

目指す生徒像	高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備えた生徒 グローバルな視点と行動力を持った生徒		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
共通テストへの変更やコロナ禍の影響で安全志向が見られ、学校推薦型選抜や総合型選抜で早期に進路先を決定する生徒が多かった。その一方で、最後まで第一志望を貫き、一般選抜で難関校に合格する生徒も増加した。リモートでの面接の実施など、試験方法も多様化しているため、正確な情報収集と、きめ細かな対応が必要である。 課題テスト等の計画的な実施により、基礎、基本の定着は概ね見られた。しかし学校生活に慣れてくる時期には家庭学習時間の減少傾向が見られた。時期に応じて生徒の実態を把握するとともに、生徒も自分自身の学びの状況を客観視する認知能力の育成が不可欠である。また、ICTを積極的に活用し生徒の感性に訴える授業を充実させ、主体的に学習に取り組む態度の育成に繋がる指導法の研究も必要である。 運動部、文化部ともに活発に活動しており、県大会・関東大会・全国大会で活躍した。生徒	基礎学力・授業の質の一層の向上	・ICT機器の積極的活用と同時に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直しを図る。 ・授業理解のための予習・復習を基本に、日常的な家庭学習習慣を身に付けさせ、平日の最低学習時間＝学年＋1時間を目指す。 ・基礎基本を定着させ（「課題テスト」の年間30回実施を継続）、発展的または探究的学習に繋がる粘り強い学習姿勢の習得を図る。 ・授業力向上のため、教員間の授業参観と観点別評価の研究を推進し、職員の指導力及び授業の質の改善および向上につなげる。 ・指導力向上のため、職員が外部講習等に積極的に参加する。	・ICT機器の活用や授業の工夫により生徒の主体性を育む活動を取り入れながら授業改善を進めることができた。 ・平日の家庭学習時間について、全年次において＋1時間の確保が課題である。高校生活に慣れてくる時期に減少傾向が見られたため、該当期の支援を強化し、低年次からの学習量増に繋げたい。 ・授業力向上に向け、教員間の授業見学や外部講習等を活用した自主研修を行い、指導力向上に繋げた。
	個に対応した指導の充実	・ICT機器の活用により授業や週末講座等を効果的にを行い、個別最適な学びの促進を図る。 ・手に届きやすい目標設定を行うなど工夫を通して、習熟度別授業の指導方法、指導内容を充実させる。 ・少人数授業は対話をベースとし、生徒一人一人が意欲的に授業に取り組めるよう授業方法の創意工夫を行う。 ・振り返りを行い、自己の学習を調整する力を身につけさせ、その内容を教師と共有することで、学習するポイントと指導するポイントの一致を図る。	・学習支援・連絡アプリを導入し、効率的な活用に向けたルールの整備に努めた。 ・生徒の個別最適な学びに繋がるICT機器の活用推進がより一層必要である。 ・少人数授業において、主体性の向上を図り、学習意欲及び学力の増進に努めた。 ・振り返りにより、生徒および教師が学習および指導のポイントを掴み、学習改善および指導改善に繋げることができた。
	進路意識・進路実績の一層の向上	・進路指針「山王プロジェクト」を基盤として、職員が指導力を高め、生徒の進路意識高揚や進路目標達成につなげる。 ・各年次の進路行事の意義を十分に指導し、自己の在り方生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。 ・大学説明会や入試分析会等に積極的に参加し、収集した正確な情報を進路指導に活用する。 ・国公立大学・難関私立大学の合格者数増を目指す。	・各年次の進路関係行事について、適正な実施時期をずらすことなく感染防止対策を講じて実施できた。 ・学校推薦型選抜および総合型選抜における小論文指導・面接指導を職員協力のもとで実施し、一定の成果をあげた。 ・大学説明会や入試分析会に積極的に参加し、その情報を進路指導に活用した。

の主体的活動を促すHR、委員会活動、学校行事等の活動内容の充実が必要である。 概ね落ち着いた生活環境を整えることができたが、制服の着こなし方や、スマホ利用のルール・マナー等の継続的な指導が必要である。全職員の共通理解を図り、全校的な取り組みと共に、目指す生徒像に向けた指導を充実させる。 情報発信量は増加したが、まだ最新のデータが外部に的確かつ速やかに伝えられていないことがある。学校評議員制度の活用やホームページ、フェイスブック、アンケート(Google Form)などの広報広聴活動を工夫する。		特別活動・部活動の一層の活性化	・学校行事への積極的参加を促し、HR・生徒会・委員会の活動で主体的に取り組む、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ・部活動においては、県大会以上の大会に出場できる部や生徒数を増やす。 ・学校行事後に感想をまとめたりキャリアパスポート等を利用することにより、学びを蓄積するとともに振り返りを行う。	・生徒が積極的に学校行事や部活動に取り組めるよう、十分な感染症対策を講じながら支援し、自主的、実践的な態度を育成することができた。 ・上位大会に出場する部活動や生徒の数は昨年と同様で多くの入賞が得られた。 ・学校行事後振り返りの機会を設け、生徒自身による検証を行うことができた。
		マナーや規範意識の向上	・全職員が共通理解を持って指導にあたり、生徒が率先してルールやマナーを順守できる態度を育てる。 ・全体的な取り組みと合わせて、生徒個々に対応した指導を図る。	・新型コロナウイルス感染拡大防止対策に努めながらも目標は達成できていた。 ・生徒に寄り添う対応指導ができていた。
		学校評価の充実	・自己評価、外部評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。 ・学校評議員制度などを通して家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握し、生徒の探究活動と連携しながら新しいイメージを発信していく。 ・ホームページやアンケート等の広報広聴活動について、ICTを駆使してさらに工夫し、充実させ、学校を活性化させる。	・より一層、ICTを活用し、生徒保護者の本校への評価を把握、検討し、学校運営に活かせるよう連携を図りたい。 ・ホームページ、フェイスブック、YouTube動画(学校紹介動画)を活用し、本校の魅力を積極的に発信することができた。
		働き方改革	・業務の目的と目標を明らかにし、効果的な教育活動を行う。 ・ICT活用等を推進し、事務作業の効率化や教材の共有化を進める。 ・教職員一人一人が自身の働き方についての意識を高め、仕事と私事ともに大切にしながら、生き生きと職務にあたることできるよう努める。	・G. Classroomを活用して職員朝会を効率的に実施した。 ・11月の教育月間は、在校等時間が全員45時間を超えなかった。
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①グローバルな視点を持ち、国内外の各分野のリーダーとして未来を牽引できる人財の育成 ②地域社会の発展に核となって貢献できる人財の育成 ③高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備え社会に貢献できる人財の育成 ＜本校生の未来の例＞ ⑦公的な機関で社会を支える。⑧医療従事者として社会を支える。⑨起業して社会を支える。⑩企業内のリーダーとして社会を支える。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①生徒一人ひとりの多様な学習ニーズに対応する。 ②生徒の主体的な学習活動、探究活動を重視する。 ③未来を牽引するための進路実現に向けた高度な学力を身に付けさせる。 (理工・医療・社会科学の分野のカリキュラム・マネジメントの充実やプロジェクトの実施)		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①様々な分野に興味を持ち、主体的に探究しようという意欲のある生徒 ②地域の諸課題に関心を持ち、主体的な探究によりその諸課題を解決しようと努める生徒 ③主体的に自分の進路実現を目指し、壁を乗り越え、日々努力する生徒 ④礼節を重んじて日常生活を送り、諸活動に積極的に取り組む意欲のある生徒		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語	・学習課題の明確化と基礎学力の定着	・シラバス・ポートフォリオを活用し、目標に沿った授業を展開する。	A	・今年度導入した Classi の活用 ・ICTを活用した授業実践の研究
		・基本的事項を確認するため、小テストを実施する。	A	
		・長期休業等を利用した課外の実施で、学習内容の定着を図る。	B	
		・教科内研修会を実施し、指導力および授業の質の向上につなげる。	B	
	・読解力の養成	・文章を考察し、分析する力を養成する授業を展開する。	A	
		・授業や課題を通して、様々な文章に触れることで、国語への関心を高め、主体的に学習に取り組む生徒を育成することに努める。	A	
		・副教材を活用し、評論用語や古典文法など読解に必要な知識の定着を図る。	A	
	・表現指導の充実	・文章を要約したり、意見を述べたりする活動を、授業や課題に取り入れる。	A	
		・各年次と連携し、小論文の指導を展開する。	A	
		・図書館部と連携し、読書感想文コンクールへの参加を促す。	A	
地理歴史 公民	・ICTを活用した学習指導の研究	・社会的な事象等について調べまとめる技能の育成を図り、学びの質の向上に努める。	A	・担当者間による模擬試験結果の分析と生徒の弱点となる単元や分野についての指導方法や対策の充実 ・次年度も生徒の学力向上と生徒の興味関心の向上を両立できる主題設定の考察や時事問題の活用
	・基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究	・1・2年次では「授業第一主義」のもと、学習態度を涵養し、基礎的知識の確実な習得を図り、思考力・判断力・表現力の育成に努める。	A	
		・3年次では「授業第一主義」のもと、課外授業・後期時間割・学校設定科目を通して、個の進路に応じた学力向上に努める。	A	
		・小テストを実施して知識の定着を図り、生徒の理解力を把握しながら授業を計画する。	A	
		・科目の特性に応じた教材の創意工夫に努め、「分かりやすい授業」の展開に努める。	A	
		・教員研修講座等の受講や定期考査等の作問方法の工夫を通し、共通テストに向けての対策・指導方法の研究を行う。	A	
		・進路実現を図るため、担当者間による模擬試験結果の分析を行う。	B	
	・現代の社会への関心の高揚	・テーマを定めた主題学習を展開し、現代の社会への興味関心を高めさせる。	B	
数学	・きめ細かな授業の展開	・少人数授業の実施により、目の行き届いた丁寧な指導を実践し、基礎基本事項の確実な定着を図る。	A	・新課程における指導内容と指導方法 ・新課程における観点別評価の工夫と改善 ・ICTを活用した授業展開の方法と工夫
	・家庭学習習慣の確立 応用力の養成	・1、2年次：毎日の復習としての課題に教科書傍用問題集を積極的に取り入れ、基礎の定着を図るとともに応用問題にも慣れさせる。	B	
		・3年次においては、文系理系それぞれの課題を自ら解くことにより、家庭学習時間の増加と学習内容の定着を図る。	B	
		・共通テスト対策の自習プリントを配布し、数学ⅠAⅡBの基礎力向上を図るとともに、すき間時間の活用を促す。	A	
	・習熟度、進路希望に応じた指導	・2年次の数学ⅡBにおいて文系：教科書の基本事項、理系：教科書～参考書（黄チャート）の内容の定着を目標とし、習熟度に応じた指導を徹底する。	A	
		・3年次では、3・4組、5・6組をそれぞれ3分割し、受験型（ⅡB・Ⅲ）に対応した授	A	

		業を展開する。			
	・意欲ある生徒への指導	・1年次：長期休業中の課外授業において難度のやや高い問題を精選・提供し、意欲ある生徒の数学力の伸長を図る。	A		
		・2年次：長期休業中の課外授業において習熟度に応じて基礎の確認から応用問題までを精選・提供し、意欲ある生徒の数学力の伸長を図る。上記に加えて、理系は希望者に対して放課後の課外授業を行い、実力養成を図る。	A		
		・3年次理系の数学Ⅲ選択者に対しては、数学研究Ⅲと併せて一貫して数学Ⅲの実力養成を図る。	A		
		・放課後等に質問に訪れる生徒には担当年次の枠を越えて随時対応する。数学研究室をその環境として整備する。	A		
	・指導技術の向上 指導方法の工夫	・担当年次の枠を越えて日頃より各種問題の解法についての研究や意見交換、授業参観を行い、指導力、指導方法の向上を図る。	B		
		・電子黒板などの ICT 機器のより効果的な活用法を研究する。	A		
理科	・学力の向上	・生徒に必要な学力を身に付けさせるために、授業を工夫し、課外を充実させる。	B	A	・ICTを積極的に利用し、学力の定着をねらった指導 ・設備、備品を整理し、実験・実習の充実 ・共通テストに向けた指導
	・設備、備品の充実	・各科目で内容を精選し、充実した実験・実習を実施する。	A		
		・実験・実習による学習によって、体験させて興味関心を持たせ、学習意欲を持続させる。	B		
		・設備備品を徐々に整備し、学習環境を良いものにしていく。	A		
	・指導力の向上	・共通テストに対応できる授業のあり方を研究する。	A		
保健体育	・体力の向上	・新体力テストの総合評価を伸ばす。	B		・体力の向上 ・ルールを尊重し、楽しく積極的に取り組む授業の充実 ・電子黒板の活用により、見やすくわかりやすい授業の工夫
		・生徒の運動時間を確保し、自ら体力を高める学習の工夫を行う。	A		
	・選択授業の充実	・選択授業を通して運動の楽しさを実感させ、自主的・自発的に活動できる能力を養う。	A		
	・規範意識の遵守	・授業を通して、ルールやマナー及び時間や安全を守る態度を養う。	A		
	・副教材を利用した授業の工夫	・保健ノート、パワーポイント、DVDなどを活用し、わかりやすい授業の展開を図る。	A		
芸術	・主体的表現活動	・芸術に関する各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	A	B	・課題提出の遅れがちな生徒についての対応 ・ICT活用に向けての環境設備 ・自己表現及び創造力の追求
		・創造的な表現を工夫し、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることが出来るようにする。	A		
		・シラバスを活用し、課題への準備を促す。	A		
		・視聴覚教材等を利用し授業の展開を図り、授業への積極的な参加を促す。	D		
		・鑑賞に関する資質・能力を育成する。	B		
		・生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	A		
	・芸術を愛好する心の育成		A		

		・上級進学をめざす者へ補習等を実施し、個々の力を伸ばす。	A		
		・個人指導の充実を図り、添削や助言等を示す。	A		
英語	・シラバスを活用し具体的目標を意識させた学習習慣の確立	・シラバスを活用し、主体的に生徒が学習できるようにする。	A	A	・4技能を総合的・効果的に伸ばせる指導の一層の活発化 ・個に応じた細やかな指導の継続 ・指導法の向上を図るための観点別評価の工夫改善
		・シラバスの内容をさらに充実させ、生徒にとっては利用しやすく教員にとっては指導目標が共有できるものとする。	A		
		・意欲的に英語学習ができるよう英検、A L T の活用を促す。	A		
		・確認テスト等を適宜実施し、学習の習慣化を一層図る。	A		
	・生徒の多様な学力に応じた指導の充実	・1年次：少人数授業の利点を生かし、予習・授業・復習のサイクルの確立を図る。新テストでも必要とされる4技能を総合的に伸ばせるよう、活動と指導法の創意工夫に努める。	A		
		・2年次：各科目で課題を工夫し家庭学習につなげるとともに自立学習できるよう促す。「話す」・「書く」のアウトプット活動を行い適切に評価することで4技能を総合的に伸ばすことに努める。	A		
		・3年次：家庭学習と授業を接続し、科目の特性に応じて、予習・授業・復習のサイクルをまわすことで、主体的な学習スタイルを確立する。入試を見据えた実践問題も多く扱い、英語得点力の向上に努める。	A		
		・成績下位者へのフォローを補習などで確実に行う。	A		
	・生徒の希望進路に応じた様々な指導と実践	・進路実現のための英語力向上を目的とした指導に加え、個々の学習到達度を確認するための単元テスト、パフォーマンステスト等を実施する。	A		
		・英検やG T E C、模擬試験等を有効に活用しながら、共通テストにも対応する英語力の育成を意識した指導を実践する。	A		
		・目標校の問題傾向を意識した指導、レベルに応じた問題演習を行う。	A		
		・教科内で情報交換を深め、指導目標を共有し、3年間を見通した上での指導が展開できるよう協力し、同時に各人が個々の指導力の向上を目指す。	A		
		・授業における効果的な指導法・評価方法について、研修会参加等を通じて研鑽・研究を進める。	A		
	・英語4技能の向上	・1、2年次では、I C T をうまく活用しながら、「聴く・話す・読む・書く」の4技能包括型活動を積極的に取り入れた授業を実践する。	A		
		・3年次では特に論理的に考え、社会的な事柄について英語で表現する能力を伸ばす。	A		
家庭	・生活を主体的に営むために必要な基礎的知識と技能の習得	・生活実態に応じた実践的・体験的な活動を多く取り入れ、生活に関する基礎的知識と技能を習得できるようにする。	A	A	・生活実態に応じた体験的な活動を取り入れて授業を展開 ・個に応じた指導を実施 ・実生活での課題を見いだし、解決を図る学習を実施
		・個に応じた指導を行う。	A		
	・自分や社会、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的態度の育成	・I C T を活用し、生活に関する情報を積極的に取り入れることができるようにする。	B		
		・家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだし、解決を図る学習を通して	A		

		生涯を見通して生活課題を解決する力を養う。			
情報	・情報活用能力の育成	・表計算ソフトや文書作成ソフトを用いて、様々なデータを扱う上で最小限心得ておくべき資質を身に付けさせる。	B	A	・データの取り扱いや分析、及びモデル化とシミュレーションの実施
	・情報セキュリティ意識の向上	・情報活用に関する興味関心を持たせるだけでなく、情報化の負の部分に配慮し、情報モラルやセキュリティに対する意識を涵養する。	A		
教務	・授業時数の確保	・授業時間を確保するとともに、本年度よりスタートしたカセットの実施時間も含め可能な限り曜日毎の授業時数の均等化を図る。	A	A	・曜日やカセット及び時限毎の記録による授業時数の均等化 ・授業評価や学習の振り返りによる生徒の主体性の育成 ・日課および教育課程の検証継続による一層のカリキュラム・マネジメントの推進 ・本校の人的・物的資源の活用による生徒の学びの深化に繋がる授業研究 ・儀式・会議のリモート実施による時間確保および職員のICTスキルの向上 ・総務企画部と連携した、より円滑な成績処理
	・教師の学習指導および生徒の学習の取り組み方の研究と改善	・ICT機器を積極的に活用し、生徒の主体的・対話的な授業を通して、より深い学びに繋がる授業展開の方策を研究する。	B		
		・学習の振り返りを実施し、教師の学習指導法や生徒の学習の取り組み方の調整を行い、教師、生徒双方のより意欲的な指導および取り組みに繋げる。	B		
		・「教科内授業研究」（年3回）や「生徒による授業評価」（授業アンケート）を実施することで実態に即した効果的な学習指導方法の研究と改善に繋げる。	A		
	・進学重視型単位制の充実	・新日課および新教育課程が本校生の進路実現に繋がる時代や地域のニーズに対応したものとなっているかを検証し、一層のカリキュラム・マネジメントの推進を図る。	A		
		・少人数授業におけるグループ編制の工夫などをおして、より効果的な授業展開の方策を研究し、生徒の学力向上を図る。	B		
	・行事等の円滑な運営	・各分掌との連絡を密にし、学校行事の日程や日課の調整を行い、学校運営を円滑にする。（各種行事や式典のリモート等新しい運営様式の確立を図る。）	A		
	・成績等の円滑な処理	・総務企画部と連携し、統合型校務支援システムを活用した成績処理や各種帳票類の作成を円滑に進める。	A		
総務企画	・本校の魅力や生徒の活動を積極的に発信し、附属中を含めた「銚一ブランド」の確立	・スクールガイド、ポスター（3種類）の作成	A	A	・ポスター、スクールガイドの作成過程、時期の見直し ・進学フェア、オープンキャンパス等、広報活動の改善、工夫 ・校務用PC（教職員用ノートPC、準備室デスクトップPC）の更新 ・授業用機器（ポータブルBDプレイヤー等）の充実
		・プロモーションビデオの活用	A		
		・中学校訪問の実施	A		
		・進学フェアへの参加	A		
		・オープンキャンパス（中学生対象）の企画、運営	A		
		・学校公式ウェブページの内容の充実	A		
		・学校評価アンケートの実施、集計、分析	A		
	・本校に対する外部の声の収集	・事務室と連携し、校内の各セグメントの効率的な運用と管理を目指す。	B		
	・持続可能な情報環境の維持と情報資産の有効利用	・情報端末機器（PC・タブレット）の保守・管理に努める。	B		
		・緊急情報メールシステムの有効な運用に努める。	A		
		・校務支援システムの管理・運営を行い、有効な運用に努める。	A		
		・情報セキュリティの実施手順に沿って、情報機器等の扱いに関する内規等を整備する。	B		
		・茨城県教育情報ネットワークの教員用アカウントならびに生徒用アカウントの管理・	A		

		運用に努める。			
生徒指導	- 生徒が安心安全に登校し、学習活動・部活動に取り組める生活環境の整備 - 基本的な生活習慣と規範意識を高める態度の育成 - 各年次学年、各部等と連携し事故等の未然防止と早期発見	生活関係		A	- 制服の着こなし方の改善 - 登校指導、さわやかマナーアップ運動等の充実 - スマートフォン使用時における指導方法の検討
		・各年次学年と連携して、服装・頭髪の指導の徹底を図る。	A		
		・集会等でルールやマナーについての意識の啓発を図る。	A		
		・登校指導を実施し、制服の着こなしや挨拶の励行を徹底させる。	A		
		・さわやかマナーアップ運動を通して、マナー・モラルを身につけさせる。	A		
		・遅刻カードを活用し、遅刻の減少と時間を守る意識を育てる。	A		
		・貴重品の管理及び移動教室時の施錠を徹底させる。	A		
		・スマートフォン、携帯電話の使用は、ルールやマナーを守らせる。	B		
	スクールバスの円滑な運行と安全の確保	交通関係			- 交通指導の充実 - 原付バイク免許取得に関する手続き等の徹底 - 交通整理要員の確保を検討
		・運行計画の策定と、安全を保つ乗降指導を行う。	A		
		・交通指導の実施	A		
		・原付バイク実技講習会の実施	A		
		・自転車点検及び交通安全指導の実施	A		
		問題行動未然防止対策			
		・被害調査を実施し、問題行動の早期発見・初期対応に努める。	A		- インターネット安心安全利用講座の工夫 - 薬物乱用防止教室及び喫煙防止教室の工夫 - 交通安全講話の改善
		・インターネット安心安全利用講座の実施	A		
		・喫煙予防教室の実施	A		
		・薬物乱用防止教室の実施	A		
		・交通安全講話の実施	A		
教育相談	支援が必要な生徒の早期発見	・『相談室だより』などによる生徒・保護者への広報	A	A	- 次年度も『相談室だより』による広報、アンケート等を実施 - 援助が必要な生徒、保護者にスクールカウンセラーや関係者等と連携を図った支援の充実 - スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを講師とする校内研修会等を実施
		・「教育相談アンケート」の実施と、その結果の分析・検討	A		
		・会議等での情報収集	A		
		・生徒情報の整理と関係者によるミーティング	A		
	適切な援助活動の実施	・援助が必要な生徒との面談・必要に応じて保護者との面談	A		
		・保護者、校内関係者間の円滑な連携の援助	A		
		・スクールカウンセラーとの連絡、調整	A		
		・特別な支援を要する生徒についての情報交換及びケース会議	B		
	教育相談研修	・校内研修会（各部との連携等）の計画と実施	A		
		・外部で行われる研修会の紹介と参加	B		
進路指導	3年間を見通した体系的な進路指導の実施	・定期的に部会を行い、3年間を見通した進路行事の計画的な運営について調整する。	A	A	- Classiを活用した個別最適化学習の定着とメディアサポートおよび模試結果と連動させた進路指導法の確立 - 進路指針『山王プロジェクト』
		・1年次では進路講演会・職業講話等を通して進路適性の把握と職業観の育成に努め、進路実現のための視野を拡大させる。	A		
		・2年次では進路講演会・大学出張講義・卒業生と語る会等を通して学部学科研究などの進路知識を拡大させる。	A		

		・3年次では進路検討会議等を通して生徒の進学希望を各教科担当者間で共有し指導に活かすとともに、面接・小論文指導等を充実させ、生徒の多様な進路目標実現を支援する。	A		における記載内容の抜本的改訂 ・新課程入試についての情報収集および情報提供 ・共通テストおよび個別学力試験の出題傾向分析と分析結果の教科への情報提供 ・学校推薦型選抜および総合型選抜出願者に対する面接・小論文指導の徹底 ・希望者対象の各種進路行事に積極参加を促す情報発信の工夫。 ・校外模試結果分析フォームへの改訂および統一
	・進路情報の収集と提供	・各年次や教科で模試結果の分析を行い、指導上の課題を明確化するとともに、職員間で情報の共有化を図る。	B		
		・生徒面談等を通して、生徒の動向の把握に努め、適切な情報提供を行う。	A		
		・高大接続改革や共通テストに関する情報の収集と分析を行い、指導に活かす。	A		
		・『進路資料』や『進路便り』の発行や情報誌の配布などを通して、生徒・保護者に適切な進路情報の提供を行う。	B		
	・学力向上	・平日の家庭学習時間「学年数＋1時間」、休日の家庭学習時間「学年数＋2時間」を最低ラインと位置づけ、家庭学習計画表等を活用しながら、家庭学習の習慣化を図る。	A		
		・放課後・長期休業中の課外や土曜講座等の特別講習の充実を図る。	B		
		・授業力向上のため、長期休業中に実施される教育研修などへの参加を勧める。	A		
	・学習環境の整備	・平日や休日に自学自習の場として尚志館を開放し、生徒の自学自習の習慣化を図る。	A		
	・附属中学校との連携	・附属中学校と連携し、中高一貫の進路指導の方法について検討を進める。	B		
特別活動	・学校行事の改善	・各種学校行事の内容の一つひとつを丁寧に検証し、本校として実現可能な魅力ある行事の実践に努める。また、すべての行事において、生徒が主体的に企画・運営に関われるように支援する。また、キャリアパスポートを利用し、学びの蓄積および振り返りを行う。	A		
	・生徒会活動の活性化	・生徒会役員が生徒代表としての自覚を持ち、各種行事の開催にあたってリーダーシップを発揮し、他の生徒を啓発し牽引できる力を育てる。また、附属中との連携を図る。	A		
	・委員会活動の活性化	・各種委員会の活動内容を見直すとともに、学校行事や日々の学校生活の中に各種委員の活動の場を積極的に設け、活用する。	A		
	・部活動の活性化	・部・同好会への加入率80%を達成できるように、部・同好会紹介等の充実と本校伝統の「文武不岐」により啓発する。	B	A	
		・それぞれの部・同好会の特性を活かし、各種大会・発表の場への積極的な参加を促すことで、活動範囲を広げられるよう支援する。	A		
		・日々の活動や生活の中に規範意識を持つとともに、互いに協力し合う精神を育てる。また、活動場所の整理整頓を常に心がけ、活動環境を整備美化する。	A		
	・HR活動の充実	・学校行事や進路指導に伴うHR活動だけでなく、レクリエーション等、各HRならではの独創性のある活動計画を立て、それらの活動を通して協調性や団結心を養う。	A		
保健安全	・保健衛生的習慣の確立	・健康診断の実施等により、健康状態の把握と的確な保健指導を行う。	A	A	・保健衛生的習慣の確立
		・適切な応急処置と保健相談活動を実施する。	A		・清掃用具の充実と環境美化活動の促進
		・『保健室関係資料』を周知し、保健室運営を円滑にする。	A		

	・清掃活動の徹底	・清掃活動を励行し、校舎内外の美化・環境問題への意識を高める。清掃用具の充実を図る。	B		・防災訓練の工夫及び防災・安全に対する施策の充実 ・安全点検及び環境整備の充実
	・防災意識の高揚	・『危機管理マニュアル』を更新し、防災訓練を遂行する。	B		
	・環境衛生の整備	・学校薬剤師の助言のもと、環境衛生検査を定期的に実施する。	A		
	・学校欠席者情報システムへの報告	・各年次・学年、各担任の協力を得て記録、報告をする。	A		
	・日本スポーツ振興センター保険の活用	・部活動、年次・学年と連絡を密にして有効に活用する。	A		
	・放射線量の測定	・放射線量の測定と報告を行う。（５・１１月）	A		
図書館	・資料の整備充実と情報化の推進	・教育課程等の展開に即応した資料の充実を図る。	A	A	・図書廃棄の円滑化 ・貸出冊数の増加を図るための広報活動の工夫 ・教科との連携や授業における図書館利用の促進 ・「ミニ図書館報」の継続的な発行
		・購入希望図書の調査を実施し、利用者に沿った図書構成に努める。	A		
		・より良い図書を選定するための情報収集を行い、バランスの取れた蔵書構成を目指す。	A		
		・小論文関連の情報と資料を更に充実させ、関連図書リストも更新する。	A		
		・規定に則り、図書の合理的廃棄作業を進め、図書資料の更新に努める。	B		
		・バーコード管理システムを活用し、蔵書管理を行う。	A		
	・図書館利用の促進	・読書感想文コンクールへの応募等を、国語科と連携して実施する。	A		
		・読書、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	B		
		・適切な利用態度を養い、自学自習の場としての活用も推進する。	A		
		・読書関連のイベントを企画し、読書への関心を高める。	B		
		・レファレンスサービスの充実を図る。	A		
	・委員会活動の活性化	・生徒図書委員を図書館報やミニ図書館報の作成、図書の展示等に関わらせ、自主性を養う。	B		
		・図書館当番や館内整備作業を通じて、責任感や奉仕の心を育む。	A		
		・生徒図書委員研修会（県東・中央）に参加し、各高校との交流により委員会活動をさらに充実したものにする。	A		
渉外	・コロナ禍における状況の変化に対応した事業の遂行	・各種行事の実施や中止をコロナの感染状況に対応して行い、案内を随時していく。実施の場合には、感染対策を徹底的におこなう。参加率には、こだわらない。	A	A	・コロナ以前のような行事の遂行（先生方の異動や３年間のブランクがあるため） ・後援会組織のスリム化と役員業務の明確化（スリム化２年目） ・同窓会の組織改編および業務整理と役割の明確化 ・110周年に向けて、100周年事
		・承認が必要な行事（総会・評議員会後援会理事会等）が中止になったときの対応を、関係者や関係部署と連携して行っていく。	A		
		・開かれた学校、情報公開を念頭に、コロナ禍でもできることを提案していく。そのために必要な協力を得られるよう、関係部署とコミュニケーションをとっていく。	B		
	・100周年記念事業の計画的な遂行	・全職員の協力を得て、準備をしっかりと行う。また、式典後の処理も滞りなく行う。	A		

	・後援会の組織改編	・保護者組織の一本化、会則の改定を行い、組織のスリム化を図る。	A		業の残務整理の完結
1 年次	・基礎学力の向上	・義務教育段階の学習内容の定着度にあわせ、目標の設定と振り返りを通して個々の生徒に応じた基礎学力の向上と学習習慣の確立を目指す。	B	B	・学習時間の増加のための動機付けの工夫と改善 ・連絡ツールや学習補助のツールとしての I C T 活用 ・課題発見・解決型学習を通して、自己と社会とのつながりを意識させ、多様な経験による社会参加意欲と自己肯定感の向上
	・自己管理能力の形成	・基本的生活習慣を土台としたマナーやモラルを大切にする態度を涵養し、人間関係形成・社会形成に欠かせない自己管理・自己抑制能力を形成する。	B		
	・自己理解・社会理解の促進	・総合的な探究の時間を中心とした課題解決型学習を通して、社会と連携・協働しながら取り組みを充実させることで自己理解・社会理解を促し、生涯にわたるよりよいキャリア形成の基盤を作る。	A		
	・自己肯定感の発揚	・個人面談や部活動、特別活動への積極的参加、自己肯定感につながるような充実した学校生活への取り組みを目指す。	A		
2 年次	・生活習慣と道徳心の確立	・スマートフォンやタブレットの使い方について、生徒自身が有効な活用方法を判断できるよう指導する。道徳教育を通して他者を尊重する態度を養う。	B	B	・平日の自学学習時間 0 分生徒の指導 ・学年 + 1 時間の学習時間確保 ・学習時間と成績の相関関係分析
	・進路指導の充実と進路目標の決定	・大学出張講義、卒業生と語る会、オープンキャンパスへの参加を通し、進路知識の拡大と自身の将来像を具体化する。	B		
	・進路実現に向けた学習習慣の定着と学力の向上	・知識の理解・定着を促すため、予習・復習を柱とした学習習慣の確立と手帳等を利用した自己管理・自己抑制能力の伸長を図る。	B		
		・高い進路目標へ挑戦する意識の高揚を図るため、授業を第一とし、Classi や模試の復習に主体的・継続的に取り組む。	C		
		・課題超過とならないよう、年次内で情報共有を図る。	B		
	・特別活動への積極的参加と地域社会への貢献	・多面的な生徒理解に努め、部活動や学業、校外活動における情報交換を密にし、個々の生徒が力を発揮して学校の中心となって活動できる体制をサポートする。	A		
		・沖縄修学旅行を通して幅広い視野で物事を捉える目を養い、生涯にわたるより良いキャリア形成の基盤を作る。	A		
3 年次	・進路実現に向けた学力の向上	・各種資料等を用いた適切な進路目標の設定と、個々の生徒の特性に応じた学力の向上と進路実現を支援する。	A	B	・進路実現のため、担任による面談を多く行い、生徒の特性に応じた支援ができた。 ・コロナ禍で日常生活・学校生活が制限される中で生徒は我慢を強いられることが多かったが、生徒の気持ちをよく理解し、丁寧に対応できた。
	・自己管理能力の定着	・日常的な身なりや態度についての指導や手帳のより積極的な利用を習慣化させる指導を通して、マナーやモラルを大切にする態度を涵養するとともに、社会人となるに欠かせない自己管理能力を向上させる。	B		
	・自己理解・社会理解の促進	・権利と責任を有する成人として生きるにふさわしい社会観や人生観を形成し、生涯にわたるキャリア形成のための実践的能力を身に付けさせる。	B		
	・自己肯定感の発揚	・部活動や特別活動及び探究活動等、自己肯定感につながるような充実した学校生活への取り組みを促す。	A		

※ 評価基準

A : 大変良くできた

B : 良くできた

C : 普通

D : やや不十分

E : 不十分